

開催しました、ファール大作戦! 9/20(土)~11/30(日)

10/4(土) 自然の再生と共生国際フォーラム in淡路夢舞台

10/4(土)に、人と自然の博物館と(財)淡路花博記念事業協会の主催で、「自然の再生と共生国際フォーラムin淡路夢舞台」を開催しました。

美しい国土を持つフランス・日本両国では、自然を再生し活かす活動が進められ、そこから子どもの遊びや生涯学習、新しいコミュニティや環境づくりにまで発展しています。中でもフランス・アペロン県と兵庫県は、それぞれの国で環境先進県として知られており、様々な地域づくりを推進しています。そこで、兵庫県とアペロン県の活動事例などを参考にして、これからの自然の再生と共生のあり方や具体的な取り組みについて考えようと、今回のフォーラムを企画しました。

フォーラム当日は、まず関西国際空港建設の土取り跡地から再生した「灘山緑地」(淡路夢舞台の背山)やフローラフェスタを見学しました。これほど大規模な自然再生は世界でも珍しく、とても驚かされていました。兵庫県のマスコット「はばたん」など日本特有の「ゆるキャラ」にも興味を示されていました。午後からのフォーラムでは、約500名の方がお越しになり、熱心にフランスからのゲストお二人、井戸知事、作家の玉岡おたるさんの話を聞かれました。後半のパネルトークには、俳優の山口崇さんにも出演いただき、民話研究家かつ淡路出身者としてこれからの淡路島へ提言をいただきました。フォーラム全体としては、

生活に根ざした自然こそ大切にすべきで、地域にお住まいの方々の活躍によって環境も生活もより良くなっていく必要があることなど議論されました。フォーラムが終わると懇親会です。在大阪・神戸フランス領事館のアラン・ナウム総領事もお越しになり、今後のアペロン県と兵庫県の交流に大いに期待されていました。

10/5(日)はフランスゲストのお二人を連れ、人と自然の博物館の「ひとはくファール大作戦」を案内しました。お二人はフランス国内よりも日本でファールの知名度が高いことに驚かれました。展示を観た後は、人と自然の博物館オリジナルの展示やサービスにも興味津々でした。展示を観た後は、人と自然の博物館のエントランスホール横に、記念植樹をしました。植えたのはフランスにも自生種があるヘラノキ(Tilia kiusiana)。大きく育ち、花には虫が来るファールに関連した植樹に似合うものです。開催記念植樹の証も交わしました。あいにくの雨で、予定していた県立有馬富士公園の視察は中止になりましたが、充実した一日でした。

今回の国際フォーラムを通して、フランス・アペロン県と兵庫県との交流がより深まったかと思えます。また、ミクロポリス昆虫博物館と人と自然の博物館との交流も深まり、今後の学術面や普及事業面での交流も始まりそうです。日本人に愛された昆虫学者ジャン・アンリ・ファールを通して始まった国際交流に、今後とも期待ください。

(赤澤宏樹 自然・環境マネジメント研究部)

編集後記

早いもので、今年も終わろうとしています。

1年をふり返ってみると、今年のひとはくは、肝心な時に天気の様相に助けてもらいました。「ファール大作戦!」も大成功の内に終了しました。これも、日頃の行いのおかげでしょうか。みなさんは、どんな一年だったでしょうか?来年も、みなさんにとっても、ひとはくにとっても素敵な年になりますように!

(小林 美樹:生涯学習課)



ヤスミン・マンマさん、(仏・ミクロポリス館長)と「はばたん」(兵庫県のマスコット)



パネルトーク



記念植樹の様子

盛り上がった、ファール大作戦! イベントいろいろ

国立フランス自然史博物館と国内の5つの自然史博物館が共同で開催する巡回展「ファールにまなぶ」展にあわせて、ひとはく全体がファール一色となる「ひとはくファール大作戦!」を9月20日から11月30日まで開催しました。虫や自然を愛した兵庫ゆかりの偉人たちを紹介する「兵庫のナチュラルリストたち」や、昆虫の不思議を遊びながら体験できる「昆虫不思議ラボ」。また、県民が展示に参加する「ひょうごのファール・未来のファール」には、300以上の出品がありました。さら

に、会期中に250以上のイベントを毎日開催し、9月20日の開会記念式典や11月3日のフェスティバルでは、ひとはくオリジナルイベント虫放天(虫を天に向かって放つイベント)を行いました。来館者も、ひとはくフェスティバル当日に、2万人を超え、従来の企画展にはないソフト展開による、幅広い、新しいスタイルの展示「ひとはくファール大作戦!」大いに盛り上がりました!



ひとはくフェスティバル、来館者2万人を突破!



変わった生きもの観察



ハチの観察会



研究員のギャラリートーク



虫さんこんにちわ



ひとはくフェスティバル'08



虫の音楽祭

図鑑は切り離してお使い下さい

解剖! ひとはくフェスティバル

(藤本真里 自然・環境マネジメント研究部)

ひとはくフェスティバルはこうして始まった!

フェスティバルは'96年夏、館内会議であった「年1回の博物館ファン感謝デー」実施の提案を受け、有志が実行委員会をつくり、予算がないため周辺企業等に協賛金を募って、3ヵ月後の秋に実施したのがはじまりです。活動が活発になってきたボランティアグループ(現 NPO法人人と自然の会)のコーディネートを担当していた研究員は、グループがはじめて市民に接する機会としていいのではないかと大きな期待も寄せていました。協賛金で運営することはその後も続いています。人と自然の会企画・実施の「楽しい手づくり工作」「ネイチャーテーリング」等は好評で大きな自信につながりました。最初の来場者数は5000人でした。



'96 楽しい手づくり工作 (NPO法人 人と自然の会)



'96 ネイチャーテーリング (NPO法人 人と自然の会)



'96 三田フォークダンスサークルに指導を受けて研究員がフォークダンス

あの頃、ひとはく研究員も若かった!

'96~'02年には収蔵庫ツアー、ジーンファームツアー、河合館長や研究部の部長による展示解説ツアーが行われていました。また、ひとはく研究員が一体何をしているのかをアピールするために、「99、'00年にはステージ上で「こんなんしてまんねん! 博物館」を、「03年には展示や各種プログラムを通じて「博物館の魂と技」を展開しました。



'08 ひとはくフェスティバル



'98河合名誉館長による展示解説



'98服部部長による展示解説



'98高橋部長による収蔵庫ツアー



'99田原研究員の収蔵庫ツアー



'02古谷研究員収蔵庫ツアー



'98三橋研究員の収蔵庫ツアー



'98鈴木研究員のジーンファームツアー



'98藤井研究員のジーンファームツアー



'99中瀬副館長の「こんなんしてまんねん」博物館



'99八木研究員の「こんなんしてまんねん」博物館

いろいろな博物館とそこで活動する市民グループ登場!

現在のように30近い博物館やそこで活動する市民グループ等が来てくださるようになったきっかけは、人と自然の会が10周年を迎えた博物館にプレゼントとして実施してくださった「スーパードリームスタジオ〜夢を追う大人たち」です。ドリームスタジオは人と自然の会がフェスティバルでやったような自主企画プログラムを日常的にやろうと毎月第3日曜日に実施していた事業名です。「博物館職員とボランティアスタッフがいっしょになってプログラムをやり交流しませんか」と全国に呼びかけ、応えてくださったみなさんのおかげで現在につながっています。以下は、'08 ひとはくフェスティバルでの写真です。



伊丹昆虫館友の会



考古楽倶楽部



キッズプラザ大阪



西宮市貝類館



みんぱくミュージアムパートナーズ



篠山チルドレンミュージアムミュージアム・クラブ



神戸市立須磨海浜水族園ボランティア



九州国立博物館



兵庫陶芸美術館



明石市立天文科学館(共催:人と自然の会)